

ライオンズガーデン調布ヶ丘管理組合 御中

「ハリウッドの大寒桜」2本
治療（土壌改良、不定根誘導）
写真報告書

作業日：2024年5月10日、30日 8：30～17：00

内 容：A オオカンザクラ 土壌改良（坪穴、マルチング）、取り木試験施工

B オオカンザクラ 土壌改良（坪穴、マルチング）、不定根誘導

A、B 液肥葉面散布（5月30日実施）、根系観察用箱埋設

施工者：きのこと 菊地仁司 篠田 亮、土屋光司、他1名

作業写真：A オオカンザクラ 土壌改良、マルチング

- ・根元周囲に坪穴を8箇所掘削し、土壌改良資材での埋め戻しと液肥施用を実施
- ・根元周囲の腐葉土を敷設していた範囲に乾燥防止のため「こも」をマルチング
- ・下枝4箇所で取り木の試験施工
- ・根元付近に根系観察箱埋設



A 土壌改良 作業前



A マルチング（こも）作業後（○根系観察箱箇所）



A 土壌改良 作業中



A 土壌改良 作業中（坪穴）



A 土壌改良 作業中（坪穴）



A 土壌改良 作業中（坪穴）

作業写真：A オオカンザクラ 土壌改良、根系観察箱埋設

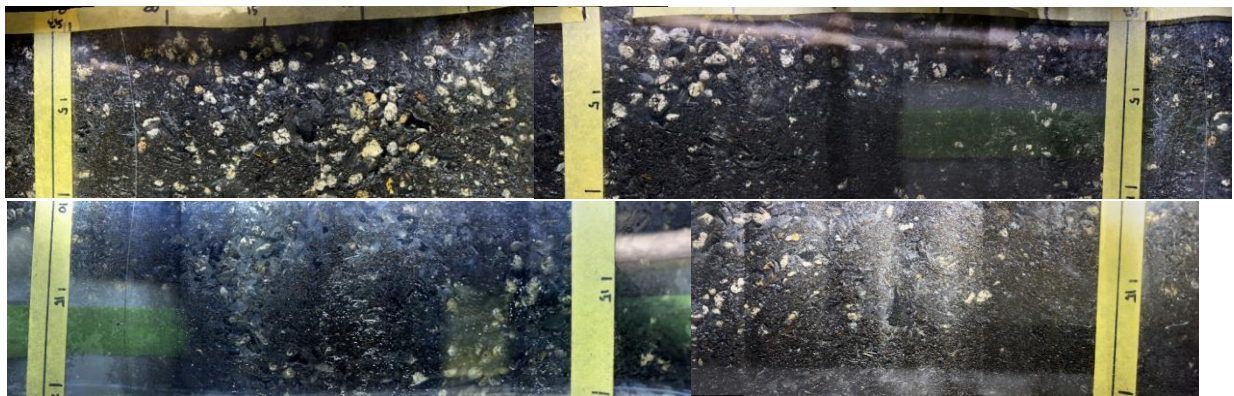


A 土壌改良 作業中（坪穴）



A 土壌改良 作業中（坪穴）

- ・根系観察箱埋設（A では円筒の亚克力ボックスを埋設し、iPhone にてパノ ラマ撮影）



A 根系観察箱埋設（左端及び右端のテープは同じものとなります）

作業写真：Aオオカンザクラ 取り木試験施工（5月13日）4箇所



A 取り木試験施工 作業中



A 取り木試験施工 作業後



A 取り木試験施工 作業中



A 取り木試験施工 作業後



A 取り木試験施工 作業後



A 取り木試験施工 作業後

挿し木よりは発根する可能性が高いと考えられる方法ですが、100%ではありません。発根が確認された場合には夏～秋ごろに鉢上げを行う予定です。

作業写真：B オオカンザクラ 土壌改良、マルチング

- ・根元周囲に坪穴を8箇所掘削し、土壌改良資材での埋め戻しと液肥施用を実施
- ・根元周囲の腐葉土を敷設していた範囲に乾燥防止のため「こも」をマルチング
- ・大枝の枝分岐基部から不定根誘導
- ・根元付近に根系観察箱埋設



B 土壌改良 作業前（坪穴）



B 土壌改良 作業中（坪穴）



B 土壌改良 作業中（坪穴）



B 土壌改良 作業中（坪穴）



B 土壌改良 作業中（坪穴）



B 土壌改良 作業中（坪穴）

作業写真：B オオカンザクラ 不定根誘導



B 不定根誘導 作業前 (○大枝基部付近から誘導)



B 不定根誘導 作業中



B 不定根誘導 作業中



B 不定根誘導 作業中



B 不定根誘導 作業後



B 不定根誘導 作業後 (□は根系観察箱埋設箇所)

作業写真：B オオカンザクラ 不定根誘導、根系観察箱埋設



B 不定根誘導 作業中



B 不定根誘導 作業中

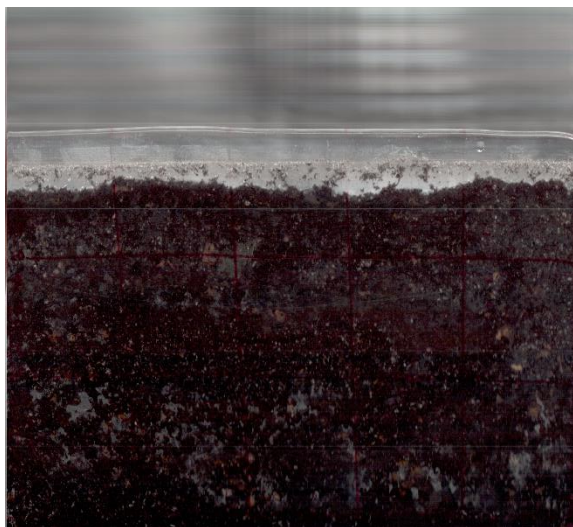


B 不定根誘導 作業後

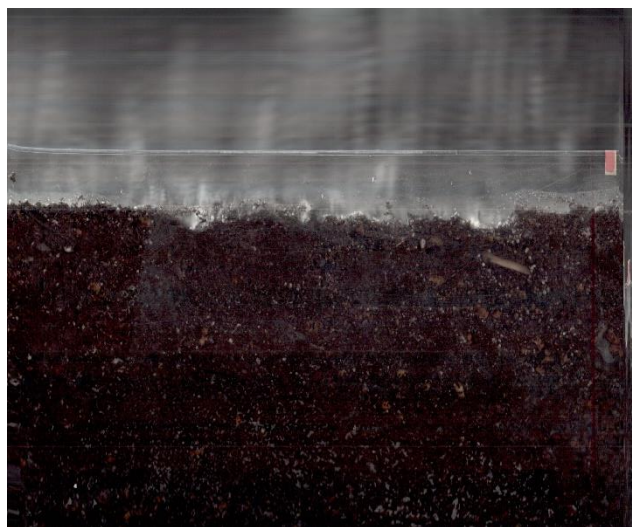


B 不定根誘導 作業後

- ・根系観察箱埋設（Bでは長方形の亚克力ボックスを埋設し、ハンディスキャナーにて撮影）



B 根系観察箱埋設 根元側



B 根系観察箱埋設 不定根誘導管側

作業写真：A、B オオカンザクラ 液肥葉面散布（リーフエナジー）

・5月30日の保全管理作業時に高所作業車から噴霧器にて液肥の葉面散布

殺虫剤及び殺菌剤も希釈して同時散布

・フェロモン剤（薬剤名：スカシバコン L さくらのコスカシバ成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的とした農薬）の設置（A、Bに加えてC～Eでも実施）



A 液肥葉面散布中（殺虫剤、殺菌剤含む）



B 液肥葉面散布中（殺虫剤、殺菌剤含む）



A フェロモン剤設置



B フェロモン剤設置

以上が今回実施したサクラの治療（土壌改良、不定根誘導他）となります。保全管理と合わせて今回確認したA、Bそれぞれの現状を下記に御報告させていただきます。

A オオカンザクラの現状

前回よりも枯枝が少なく、胴吹き枝の葉が増加しており、樹勢回復傾向にあると考えられます。ただ、前回（11月）と実施時期が異なるため、夏で弱る枝や枯枝発生の経過を見たうえで改めて状態の変化を確認する必要があります。

B オオカンザクラの現状

A同様に前回よりも枯枝が少なく、胴吹き枝が伸長し、葉の量が増加しています。こちらも夏の影響を見た上で判断をしていく必要があります。

今回実施した不定根誘導は2～3年後に状態を確認する必要があります。2022年5月に早期実施推奨作業として実施した専用庭側大枝欠損部への不定根誘導箇所の被覆を開けて、状態を確認してみましたが発根は見られませんでした。充填資材にはクロアリが巣を作っており（特に被害は及ぼしません、自然な状態です）、心材の腐朽はほぼ進んでいませんでした。また、欠損部の縁では周囲の形成層から巻き込みが以前よりも広がっていましたので、充填資材を追加し被覆を戻しました。



被覆を除去した専用庭側大枝



○内の形成層が成長して巻き込みが進行

前回 2023 年 11 月に実施した根元に発生していたコフキタケ除去跡の不定根誘導については来年以降で確認を行う予定となります。

C～E ソメイヨシノの現状

ソメイヨシノ 3 本について、保全管理において一部取り除きましたが、がんしゅ症状の枝がまだ多く残っています。がんしゅ症状の発生している枝は今後衰退、枯れていくと推測されます。しかし、除去すると枝葉の量が極端に減少してしまう枝も少なくなく、同時に新しい枝を増やし、古い枝から新しい枝への更新ができるようにしていく必要があります、次回以降（オオカンザクラの状態にもよりますが）は、ソメイヨシノの仕切り撤去、土壌改良なども行っていくことが望ましいと考えられます。